

坂根病院

住所	岸和田市下松町 1 3 4 4-3	電話	0 7 2-4 2 8-2 0 3 7
病床数	150 床	病棟数	2 病棟

人権センターニュース No. 91 より

オンブズマン活動報告

平成 20 年 7 月 4 日訪問

病院全体

前回のオンブズマン活動(平成 17 年 5 月)の報告書で検討事項にあげられていた洗濯・着替えの管理、診察場所については変わっていない。詰所の配置については検討されているようで「他によい案がない」とのこと。また、飲み物は 1 日 5 回、やかんが置かれるようになった。金銭管理費等の値段は、保険外費用の徴収に関する同意書に明記され、病棟内にも一覧表が掲示。女性開放病棟に電話を設置。

退院への取組みは、「急薬による再入院が多いので薬をきっちりのんでもらえるようになることを重視している」「新たに精神保健福祉士(PSW)が 1 名雇用され、平均在院日数は短くはなっている」「住む場所の確保が大変」との話があった。

病院側の説明

- (1) 人権擁護委員会: 月 1 回開催。意見箱は病棟に設置。毎朝、夜勤明けの職員が回収。これまで回答の掲示が必要な投書は入っていない。
- (2) 行動制限最小化委員会: 設置している。
- (3) 担当制: 担当看護師がいる。PSW は 1 名。
- (4) 診察: 詰所内やベッドサイドで行われる。
- (5) 服薬: 職員が病室をまわって手渡し。1 週間分ずつなど自己管理への取り組みを始めた。
- (6) 外出: 詰所にあるノートに行き先等を記入。開放病棟では 6:30~18:30 外出ができ、閉鎖病棟で開放処遇の患者は 9:30~16:30 詰所に申出ることによって外に出ることが可能。院内散歩ではグラウンドや畑、娯楽室に行く患者が多い。
- (7) 金銭管理: 管理費 100 円/日。ロッカー鍵の貸出 32 円/日。基本は 10 日に 1 回 2,000 円渡す。
- (8) 食事の選択メニュー: なし。
- (9) 入浴: 週に 2 回。
- (10) 面会: 面会室は有。面会時間 9:00~16:00。
- (11) 携帯電話: 持込みできない。持ち込みできるようにする方向で話合っている。
- (12) 院内売店: 決まった日に食堂に業者が来ておやつ、ジュース、果物等を販売。伝票で購入。
- (13) PSW: 1 名。相談室などはなく、事務所にいる。PSW は病棟をまわり患者と話している。患者とグループホームを探したり、カンファレンスをもって個別の患者の次のステップを考える等の退院に向けた取組みがはじまりだした。
- (14) OT: 工芸や音楽鑑賞等の個人プログラムや、卓球・料理・園芸等グループプログラムもある。

病棟について

【病室】

畳の部屋とベッドの部屋がある。ベッドに患者名と主治医名が掲示。ベッド周りのカーテンはある部屋とない部屋がある。

【隔離室】

女性開放病棟の詰所奥に 2 部屋。トイレの水洗の操作は建物の外側から行う構造のため、職員はトイレの水を流すのに一旦外に出て行かなければならない。モニターは 2 階の詰所に設置。

【トイレ】

トイレ個室の扉の高さが、開放病棟では高くなっていたが、閉鎖病棟では 150cmくらいだった。以前に食べ物をトイレに詰める等、トラブルがあったため、この高さになったが、改修を予定。

女性閉鎖病棟ではサンタリーボックスとして蓋の付いたバケツがあったが、その蓋が転がっていたり蓋がちゃんとされておらず、トイレ内も尿臭がした。女性開放病棟ではサンタリーボックスがバケツで、蓋がなく中が見える状態だった。

【娯楽室・デイルーム】

男性開放病棟には広い「娯楽室」があり、ビデオ鑑賞などのために椅子が沢山並べられていた。他の病棟の患者も利用できる。麻雀卓で麻雀をしたり、違う病棟の患者と待ち合わせて話をしたり、読書をしたり、めいめいに過ごしていた。娯楽室へ続く廊下に喫煙コーナーがあり、喫煙テーブルが置かれていた。月に 1 回、映画会が開かれる(参加費 100 円)とのことだった。

男性閉鎖病棟では病室の 2 つで天井付近にテレビが 1 台ずつ取付けられ、女性閉鎖病棟では 1 室の畳部屋にテレビがあった。患者によると、テレビを見るときは他の部屋の患者もその部屋へ入るとのことだった。意見箱もあった。

【電話】

男性閉鎖病棟では詰所から離れた、廊下の広くなったところにあったが、他病棟では詰所と廊下を挟んだ向かい側にあり、囲い等はなかった。

【たばこ】

閉鎖病棟は 1 日 11 本で、吸う時間の掲示があった。開放病棟では制限はないようだった。

【浴室】

午前中は女性で午後は男性が入る。6 月～8 月は日曜日にもシャワー浴が可能。病棟職員、患者から「浴室が狭くて介助がしにくいので、なんとかしてほしい」「浴室がせまい」との声があった。

【洗濯場・衣類倉庫】

病院全体の洗濯場、衣類倉庫があり、患者全員分の洗濯や閉鎖病棟患者の衣類の管理は職員が行っていた。洗濯代は 1 点 58 円。手洗いしている患者は数名いるようだが、職員によると「洗濯機は危ないので(患者は)使っていない」。衣類倉庫は患者ごとの衣装ケースが並んでいた。

男性閉鎖病棟

おやつや飲物などの買物に食堂へ向かうため、20 名弱の患者が隣の女性閉鎖病棟との間にある扉の前に並んでいた。その後、廊下で職員が缶飲料を配り、患者が集まってきていた。台の上に缶が逆さに並べられ、缶底にペンで患者の名前が書かれていた。すぐに取りに来なかった患者が、職員から「取りに来んと！」と強い口調で言われていた。病室内でラジカセやポータブル CD プレイヤーを利用している患者が数名いた。詰所は病室(13 号室)の奥にあり、詰所への出入はこの部屋を通らないといけなかった。その病室では拘束をされている患者の傍らに職員がしゃがみ込んで会話をしていた。

男性開放病棟

廊下ではあまり患者に出会わず、全体的に静かだった。外出をしていたり、談話室や各病室内にいるようだった。病室にはナースコールが設置。テレビが置かれた病室もあったが、閉鎖病棟のように他の病室の患者が出入りしている様子はなかった。6 人で 16 畳程の畳部屋もあった。病室の壁にはスケジュール表が貼られていた。

女性閉鎖病棟

畳部屋では 1 部屋に 10 名の患者が入院している部屋もあった。

患者の声

男性閉鎖病棟「ヘルパーがトイレをきれいに掃除してくれる」「週 1 回くらい喧嘩がある」「300 円で散髪ができる。1 階で」「歯磨きや紙を買う。電池はダメ」「食事は配膳車まで取りに行って、ベッドのところで食べる」「院内散歩やカラオケがある」「1 ヶ月くらい外出してない」「親に連絡をとりたい」「病棟で対話会があり、そこで意見を言える」

男性開放病棟「ラジオ体操はグラウンドです」「点滴がなくなる時などにナースコールを使う」「昔は当番制で廊下の掃除をしないとイケなかったが今はない」「昔は患者同士の暴力があった。今は穏やか」「目安箱に入れた意見は通る」「入浴は週2回。シャワーの出が悪い」「部屋ごとに入浴する。最後の方は湯が汚い」「湯船には1度に3名くらいがつかる。狭い」「私物入れは1人2個まで」「テレビは9時まで」「年に1~2回、布団交換がある」「鍵代が1日32円、小遣い管理料が月3,000円程。衣装ケースは500円/月くらい。黒ケースと白ケースで値段が違う。色々お金がかかる」「卓球台があり、卓球ができる」「部屋でテレビをみたり、OTや散歩で気分転換をする」

女性閉鎖病棟「30年以上入院している」「10年以上入院している」「週に1回ぐらい詰所で診察がある」「みんなではないが、怖い看護師がいる」

女性開放病棟「お風呂が週2回は少ない。」「季節外れの服は倉庫に置いており、季節が変わると荷物の入れ替えをする」「タバコはマイルドセブンしか売ってない。別のタバコを吸いたい」「タオルの値段が閉鎖のほうが高い。閉鎖病棟は開放病棟よりもタオルの長さが短い」「トイレットペーパーは自分で持ち込む。開放病棟は123円で閉鎖病棟は246円だった」「OTが楽しみ」

検討事項

【退院支援の強化を】

退院支援についての取組みがはじまってきているように感じられた。ただ、平均在院日数が2,798日(平成20年6月時点)であり、全国平均320.3日(平成18年)と比べてもかなり長い。

患者から「ケースワーカーは病室によく来ている。何人かの患者が退院していつている」という声がある一方で、病棟によっては「ケースワーカーが病院にいるかどうかは分からない」「退院のことは考えない。できるのだろうか」等の声もあった。普段から患者や家族に対し、退院に向けた支援があることや退院後の暮らしを支える仕組みが地域にある現状を伝えることをお願いしたい。

退院促進事業の利用者は2名であるが、病院側の意見としては「患者が病院を追い出されると拒否的になってしまうので積極的に利用することは考えていない」との話だった。長期に渡って入院を続けてきた患者が、いざ退院を計画するに際して、いろいろな不安を感じて、ときには計画を進めることに躊躇することもあるが、退院促進事業においては、この点に配慮したさまざまな取組みが工夫されてきている。病院のケースワーカーは、支援員その他の地域の社会資源のスタッフと積極的に連携し協力を図り、長期在院の解消に取り組んでいただきたい。(病院:2008年10月19日に家族教室開催。同年11月25日には病院職員を対象に、復帰協・保健所を講師に招き、「退院促進事業」に関する研修会を開催。2009年2月現在、「退院促進事業」の利用を3名が検討している。今後も退院に向け、支援員その他地域の社会資源のスタッフと連携をとりつつ進めます。)

【カーテンの設置】

今回の訪問時には何部屋かでカーテンが設置されていた。病棟職員から「(さらにカーテンを設置することは)今後の課題です」との話があった。女性閉鎖病棟3号室では廊下側の壁に窓があり、その窓は透明で曇りガラス等にはなっていない。目線の高さあたりだけでなく、下は床近くまで窓になっていた。室内にはカーテンがない為、廊下から病室内の様子が完全に見える状態だった。また、その部屋で目隠し等の使用なくおむつ交換が行われていた。病院全体として、さらにカーテンの設置を進めていただくこと、また設置されるまでの間も、廊下側の窓にシールを貼る等の実施をお願いしたい。加えて、おむつ交換時の患者のプライバシー保障についても検討をお願いしたい。(病院:カーテンが設置されるまでの間、廊下側の窓にシールを張ることも含め、カーテンの設置を進めると共におむつ交換時の患者のプライバシーの保障についても検討します。)

【金銭の自己管理】

全員が病院管理だった。病院によると「(金銭や薬など)何でも病院が管理することがよいとは思っていない。今のところ、金銭の自己管理ができる患者がいない」とのことだったので、退院に向けて金銭自己管理能力を身につけることが重要ではないかとの意見を伝えた。現状ではほとんどの患者が10日で2,000円ずつ(一部500円の患者もいる)手渡す仕組みだが、例えば、手渡す間隔やその額などに様々な段階を設ける等、自己管理ができるようになるための支援はできるのではないだろうか。退院に向け、一人でも多くの患者が金銭の自己管理ができるようにな

る支援や仕組みについて検討をお願いしたい。(病院:薬・金銭の手渡す間隔や、その額等を含め再度検討します。)

【着替えの管理】

多くの患者の着替えが倉庫で管理されていた。患者から「畳部屋では衣装ケースを置いたらいけない。私物を置いたら怒られるので不便」との声があった。着替えを身の回りに置くことやそのことへの支援を検討していただきたい。(病院:スペースの問題がありますが、検討します。)

【洗濯】

洗濯はすべて職員に任す仕組で、患者は洗濯機の使用ができなかった。患者から「病院に洗濯をしてもらわないといけないのでお金がかかる。自分で使える洗濯機があれば便利だと思う」との声があった。他の多くの病院のように患者が使える洗濯機の設置について検討をお願いしたい。(病院:構造上スペース・排水設備等の問題があり大変難しいですが、検討します。)

【診察時のプライバシー】

診察が診察室ではなく、詰所やベッドサイドで行われているとのことだった。訪問時、女性開放病棟では詰所内で診察が行われていて、詰所横の廊下を通ると声が聞こえていた。診察室の確保や衝立等を使用するなど、患者がまわりを気にせずに主治医と話せる環境の保障をお願いしたい。(病院:診察室の設置は難しいと思われませんが、衝立等の使用について検討いたします。)

【電話の設置場所】

男性開放病棟、女性閉鎖病棟、女性開放病棟では電話が詰所前の廊下に入り、困り等はなかった。患者から「電話が詰所の目の前にあるので、小さな声で話さないと聞かれない。かけにくい」との声があった。他人に聞かれないプライベートなことや、病院や職員に対する不満などを、周囲に気兼ねすることなく電話できる環境の検討をお願いしたい。(病院:建物の構造上難しいですが、各方面に相談し改善の検討をします。)

【隔離室の鉄格子とトイレ周りの囲い】

隔離室には天井からほぼ床にかけての鉄格子があった。和式トイレの周りには目隠しになる囲い等はなかった。急性症状のしんどい時期を隔離室の中で過ごす患者にとって安心し、落ち着ける環境とは言い難いのではないだろうか。トイレ周りの囲いの設置や鉄格子の撤去の検討をお願いしたい。(病院:構造上難しい面があるが、業者等に相談し検討します。)

【窓の鉄格子】

病室の窓に白い鉄格子が設置されていた。鉄格子は入院患者に圧迫感と屈辱感を与え、また、それが精神障害者に対する偏見を助長してきた事を考えると、その取り外しの検討をお願いしたい。(病院:建物の構造上難しいところもあるが、業者等に相談し検討します。)

【トイレトイレットペーパーの備え付け】

トイレ個室にトイレトイレットペーパーがなく、トイレ使用時には患者が購入したペーパーをもってくるようになっていた。トイレトイレットペーパーの設置の検討をお願いしたい。(病院:早急に設置します。)

H20 大阪府精神保健福祉関係資料より

(坂根病院分)

146名の入院者のうち統合失調症群が113名(77%)、気分障害が19名(13%)、認知症など症状性を含む器質性精神障害が10名(7%)。入院形態は任意入院97名(66%)、医療保護入院49名(34%)。在院期間は1年未満が28名(19%)、1年以上5年未満が44名(30%)、5年以上10年未満が35名(24%)、10年以上20年未満が26名(18%)、20年以上が13名(9%)。(H20.6.30時点)